

## 6. その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

### 6.1 連携と協働

千代川がより多くの人々に親しめるよう、地域と連携・協働し川づくりを行います。

このため、河川管理者、関係機関、NPO 団体、地元住民などが、それぞれの役割を十分理解しつつ、互いに連携し合い、川づくりを進めていくことが必要です。

千代川では、地域と連携した川づくりとして、現在実施している内容に加え、魚道などの魚類遡上環境の改善等、許可工作物の改修に関し、必要に応じて支援していくとともに、地域の要望を踏まえ積極的に対応を図ります。

#### 【現在実施している主な内容】

- ・河川愛護月間などにおける河川清掃等の行事、水防演習、各種イベントやインターネットの他、事務所広報誌「KINANSE」や千代川流域圏会議広報誌「千代川ニュース」などを通じ、治水、利水、河川環境に関する知識の向上や河川愛護、河川美化などの普及や啓発に努めています。
- ・千代川を軸とした交流・連携を図り、豊かなふるさとを創造することを目的として平成9年12月に発足した「千代川流域圏会議」への必要な情報の提供を行っています。

### 6.2 情報の共有化

連携と協働を実現するためには、治水・利水・環境に関わる情報を地域と共有化することが重要です。

そのため、ホームページ等を活用して千代川の河川整備状況や自然環境の現状等に関する情報を広く共有するとともに、意見交換の場づくりを図るなど、関係機関や地域住民等との双方向コミュニケーションを推進します。

### 6.3 意識の向上

河川の持つ治水・利水・環境それぞれの機能は、河川管理者のみによって提供されるものではなく、地域住民の方々の行動が加わることで初めて十分な機能が発揮されるものです。

治水に関しては、その時点での整備水準を上回る規模の洪水が発生した場合の被害を最小限に食い止めるためには、地域住民の防災意識の向上が必要となります。このため、既に公表している浸水想定区域図に加え、市町が作成するハザードマップの作成に関しては必要な情報の提供や作成支援を進めます。

利水に関しては、節水などの量的対策が進むよう、家庭雑排水に対する対策など、身近に出来る取り組みが地域に根付いていくよう広報、啓発活動を進めます。

環境に関しては、前述の量的対策に加え、良好な千代川の水質を維持するために生活系負荷及び農業系負荷などの削減が進むよう、啓発活動に努めるとともに、千代川の自然の豊かさを実感できるように、空間形成づくりに加え、生物調査など自然体験活動等を通じて千代川に接する機会の提供、将来を担う子供たちへの環境教育の支援など、千代川に対する関心が高まるよう活動を行います。

### 6.4 社会環境の変化への対応

地域社会の変化に伴い、千代川の河川空間が果たすべき役割も、新たな社会環境への対応が求められています。また、千代川は社会基盤形成の一つとして、多様な機能が求められています。

このため、千代川の河川整備では、地域計画などとの連携を図りつつ、施設整備などのハードな対策に加え、組織づくりなどのソフト対策にも努めます。